

保育計画成果報告書

法人名	－
施設名	小羊園
報告者（役職）	鈴木智恵（園長）
住所・連絡先	宮城県仙台市泉区高森３丁目４－１６９
	☎ ０２２－３７８－４８０４
	E-mail kohitsujien@hotmail.com

○タイトル（保育計画）

のびのび遊べるお庭づくり

○主な助成備品

フェンス、砂場、大型ベビーカー用車庫スペース

１．保育計画策定の目的

小羊園は昭和５１年に近隣のお母さんたちが、お互いの子どもの面倒をみあう家庭保育室として開園しました。開園当初は初代園長の自宅の庭に中古のバスを置き、バスの中で保育をしていたと聞いています。その後、昭和６２年に現在の場所に自宅を新築し、一階部分を保育園として使うことにしました。新興住宅地の中にある小羊園は、周囲の住宅となんら変わりのない一軒家ですので、保育園としての設備は何ひとつありませんでした。リビングダイニングを保育室にし、キッチンが調理室に・・・トイレや洗面台も踏み台や子ども用の便座をのせて使っていたので、子どもにとっても保育士にとっても、とても使いづらく不便でした。

平成２７年４月の小規模保育事業の開始にあたり、建物の内部は全面リフォームを行いました。おかげで保育園としての設備を備えることができ、不便に思うことはほとんどなくなりました。しかし園庭の整備までは行えず、子どもたちが遊ぶには小羊園の庭は危険で不便な状態でした。塀の代わりの庭木が多いうえ、枯山水庭園で大きな庭石が十数個もありました。小さな子どもたちは石につまずいて転んだりしますし、大きな庭石が遊ぶスペースを更に狭くしていたので思い切り走ることもできませんでした。

長年の課題であった「子どもたちが広々とした庭で安全に遊んで欲しい」を実現させるために、庭木の数を少なくし大きな庭石を撤去しさらに転んでも痛くないように前面に砂を敷くことを考えました。また新たにフェンスを設置することで外部からの侵入を防ぐことにもなり、安全性が一層高まることを目指しました。

2. 具体的な実施内容

《家主さんのあたたかい理解があつてこそ》

初代園長が他界した後、娘、息子が小羊園を継いでいました。初代園長のご主人は健在で園の二階に住んでいます。庭を改造するにも勝手にできないので、保育をするうえで何が危険で、問題なのかを説明することから始めました。家主さんは子どもたちが危険で、のびのびと遊べないことに共感してくださり、園庭の整備には快く了解をもらうことができました。ありがとうございました。

《庭にパワーショベルがきたよ！》

造園の職人さんたちがスコップで次から次へ穴を掘り、庭木を撤去していく。その光景を2歳児の7名が部屋の窓から、食い入るように見ていました。「あの木どうするの？」と聞いてくる子もいました。庭木をおおかた撤去すると、庭石を撤去するためにミニパワーショベルが庭に運ばれてきました。「あ〜っ！ショベルカーだよ！」また子どもたちは職人さんの仕事ぶりに釘づけです。言葉の遅い子が、手でパワーショベルの動きを何度も真似ていたのが忘れられません。



《庭が広がったねっ。だけど・・・》

庭木と庭石を撤去すると視界が広がったように、庭一面が隅々まで見渡せるようになりました。庭の中央にあった庭石と木々の小島がなくなり、庭石の下に住んでいたカナヘビはどこに引っ越したのだろうか？と心配になりました。でも、新しく出来た西側の緑のゾーンに引っ越しを済ませていたので安心しました。

《ころんでも痛くないよ！どこでも砂遊びができるね！》

玄関脇にあった砂場を藤棚の下に移動してもらいました。水道も近いので砂場に水を引きやすくなりました。深く穴を掘ったりトンネルを作ったりして遊びました。今まで砂場のあった場所をコンクリートで埋め、大型ベビーカーの車庫にしました。屋根があるので雨で濡れることもなくなりました。

踏み固められていた庭の土の上全面に砂を敷きました。今までにない歩く感触に気持ちよさを感じたのは子どもたちだけではありません。大人も気持ち良さを感じ、砂の上に座って子どもと遊びました。「よういドン」と走っても気持ちがいいし、砂の上に寝転ぶ姿もありました。つまずいて転ぶこともなくなり、転んでも痛くないので安心です。歩き始めた0歳児も安心して歩く練習ができます。



《緑のゾーンにはお花を植えました》

家主さんのために枯山水の庭の一部を残したくて、庭の西側に緑のゾーンを作りました。枯山水の大きな庭石をいくつかそこに置き、大きな松の木も残しました。小さな築山には紫陽花やクリスマスローズも残しました。築山の回りには、プランターを置き季節ごとにパンジーやベゴニア、チューリップを植え子どもたちと水やりを楽しみました。

2歳児クラスでは、ひまわりや百日花、ミニ菜園に野菜の苗を植えて育てました。意欲的に水やりをする子もいました。野菜の収穫は少しでしたが、給食で食べたりしました。



3. その成果と評価

《のびのび遊べるお庭になって》

子どもたちが安全に遊べる庭になったことが一番の成果です。さらに庭が広くなり遊べるスペースが今までの3倍以上になったのが嬉しいです。背の高い樹木や実の成る樹木を

撤去し、庭全体が明るくなったとも感じます。

庭木の根っこにつまずいて転ぶこともなければ、転んで石にぶつかることもなくなりました。特に0歳児1歳児は歩行も不安定で転ぶことが多いので、安心して歩かせることができるようになりました。また、全面に砂を敷いたことで転んでもケガをすることはほとんどありません。砂の柔らかい感触が気持ちよくて砂場以外でもしゃがみ込んで砂遊びをしています。かつては、砂場が狭かったので、「せまいよ！」とケンカする姿が見られましたが今はほとんどありません。

この助成を受けて庭の整備を行うことができたことは、‘一軒家を保育園として使用している小羊園が、保育施設としての設備が整い機能している’と言える。家庭的な環境で子どもたちを育てるのが私たちの保育方針の一つです。家庭的ではあるが、保育するにふさわしい環境も重要です。今回の助成でまた一つ、保育環境が充実したことは園としても嬉しいことでした。



4. 今後の課題と展望

これまで27年4月の開園に向けて1～3月は園内全面リフォーム工事を行い、園内の環境を整備しました。27年度は第一生命財団の助成を受けて園庭の整備を行い、のびのび遊べるお庭を作ることができました。

今後の課題は、老朽化した門扉を新しい門扉に取り換えることです。門の入り口には階段もあり小さな子どもが上り下りするには危険なので、スロープ状にして安全を確保したいと考えています。また、門扉から玄関に通じる通路は、雨が降ると水はけが悪く水たまりができます。梅雨時期は特に歩きにくいようです。ここも改善する必要があります。

砂場の脇にある水道も使いにくく、水受けも壊れているので早急に修理しなければなりません。

いずれは2歳児室の大きな窓の外に、子どもが座れるような木製テラスを作りたいと思っています。それは部屋からこのテラスに出入りが出来るようになることで、非常時にここから避難することが出来ると考えているからです。

まだまだ気がつかないでいる課題がありますが、ひとつひとつ課題をこなしていきより良い環境を整えたいと思います。

小羊園の保育方針は「ひとりひとりを大切にする保育です」が、常に上を見ながら保育にあたることを忘れずにいたいと思います。

以上